



株式会社 常磐植物化学研究所
CSR Report 2014
(社会・環境活動レポート2014)

対象期間 : 2013年4月～2014年3月

発行日 : 2014年 8月 25日

目次

ご挨拶	3
教育CSR	
常磐植物化学研究所の実験実習教室「千葉県立佐倉高等学校」	4
「教育応援プロジェクト」と「若手研究者応援プロジェクト」への参加	4
根郷小学校での理科実験教室	5
ハーブ療法に関する啓蒙活動「日本ハーブ療法研究会」	5
植物化学の発展に貢献	
協賛学会・シンポジウムの一覧	5
加盟業界団体	5
共同研究機関の一覧	6
学会／論文・寄稿の一覧	6
自然との共生 ゼロエミッション	
植物抽出残渣の堆肥化によるゼロエミッション活動	6
文化・社会貢献活動	
豊かな文化活動に貢献	7
感動を伝えるスポーツ活動	7
地域に根ざした貢献活動	
本社工場周辺で美化活動を実施	7
ハーブ園見学を通じてお客様と対話	7
環境活動レポート(エコ・アクション21)	
エコ・アクション21とは	8
環境方針	8
登録事業所の概要・環境経営組織図	9
環境活動の取組計画と評価	10
2014年度 環境活動計画	12
中期目標(2013年～2015年)	12
環境関連法規の遵守状況	13
代表者による評価と見直し	13

常磐植物化学研究所

CSR Report 2014

【ご挨拶】

常磐植物化学研究所のCSR Report をご覧いただき、誠にありがとうございます。

2014年10月、弊社は65周年を迎えます。2008年に環境経営システムを導入し、2009年から社会・環境活動報告書を作成するようになりました。

CSR基本理念を考えていたところ、CSRの基本理念が1949年に書かれた「**設立趣意書**」にすでに表現されていることに気付きました。

これからも社業発展を通じて、社員の幸福に貢献し、単に営利を目的とするのではなく、事業活動を通じて植物化学と地域社会の発展に貢献して参りたいと思います。

株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

「CSR基本理念」

私たちは、植物と共にあらゆる可能性を追求することにより社会へ貢献します。持続可能な企業活動を行うために、植物資源の調達から、植物化学研究及び開発、加工、製品化、すべてにおいて、地球環境への影響を重視し、積極的に保全活動に努めます。また、薬用植物の試験栽培、科学教育の推進を通じて、植物化学の発展、植物と人の豊かな社会作りに貢献します。

「設立趣意書」

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。
したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、本社設立の趣旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月

株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人



常磐植物化学研究所の教育CSR

常磐植物化学研究所の実験実習教室

本社のある佐倉市を中心に、私たちは地域に密着したCSR活動を行っています。社員ひとりひとりが地域社会の一員であることを認識し、今後も活動を継続していきます。

「～常磐植物化学研究所講座～植物の成分を精製しよう！～」

【実施校】 千葉県立佐倉高等学校 1年生 20名

【実施日】 2013年7月16日

【目的】 社会貢献活動の一環として実験教室を毎年行っています。化学を身近に感じてもらい、次世代を担う人材の育成を目指しています。佐倉高校は大学や研究機関、企業との連携により、研究者による講演会や先端技術に触れる機会を設けることで生徒の科学への関心を高め、国際的な人材の育成を目指しています。

授業内容

植物から化学成分を取り出す意義について講義を行い、数千を超える成分を持つ植物からどのようにして目的の成分を取り出すかという原理を学んだ後、薄層クロマトグラフィー法を用いて、甘草(カンゾウ)エキスから甘味成分として使用されるグリチルリチン酸を分離し、紫外線ランプ下で確認することにより、分離の原理と技法を体験してもらいました。



実験実習後、本社工場施設及びハーブ園を見学しました。

本格的な化学の勉強を始めて間もない皆さんでしたが、これから化学の勉強を進める中で、今回の実験内容と勉強が結びつき、より一層化学への関心を高めてもらえることを願っています。

「教育応援プロジェクト」と「若手研究者応援プロジェクト」への参加

当社は、教育CSR活動の一環として、株式会社リバネス様の「若手研究者応援プロジェクト」と「教育応援プロジェクト」に参加しています。

「常磐植物化学研究所講座～植物の成分を精製しよう！～」が、教育応援プロジェクトの「教育CSR大賞、実験教室部門」において、出前実験教室(中高生)部門賞を受賞しました。



根郷小学校での理科実験教室

佐倉市立根郷小学校の児童のみなさんを対象として、甘草の甘さ体験や、ビルベリーの色素を取り出す化学の実験授業を行いました。砂糖の150倍の甘さや色だけを分けていく未知の体験に、驚きと関心を持って授業に取り組んでもらいました。

実施日 2014年2月3日



ビルベリー成分の実験

ビルベリーからとれるアントシアニンという成分と、私たちの生活への関わりを知ってもらいました。

- 【目的】植物から成分を取り出す方法を知る
【手順】① ビルベリー果汁をカラムに注ぐ
② コックをひねり、少しずつ果汁を流す
③ 流し終えたら、次にエタノールを注ぐ
【結果】アントシアニンの青色溶液が得られる

甘草成分の実験

甘草(カンゾウ)からとれるグリチルリチンという成分が、医薬品や化粧品または食品にどのように使われているのか知ってもらいました。

- 【目的】植物に含まれる成分のちからを知る
【手順】① 砂糖と甘草エキスを用意する
② 量をかえて水に溶かす
③ 甘さが弱い(濃度が薄い)順に舐める
【結果】少しでもとても甘く感じる
少し時間をおいてから、また長く甘さを感じる

ハーブ療法に関する啓蒙活動「日本ハーブ療法研究会」

ハーブ療法研究会の、「ハーブ療法に関する学術的な進歩とともに普及、啓蒙を図り、ハーブ療法に関する研究・教育、ひいては人々の健康増進・維持および疾患予防や治療に寄与する」との目的に賛同し、第一回学術集会において、「伝統的東洋ハーブ羅布麻(ラフマ)によるメンタルケア」ーその機能性と安全性ーと題した特別講演を行いました。



植物化学の発展に貢献

協賛学会・シンポジウムの一覧

下記団体に参画・寄付・協賛を継続的にを行っています。

日本学術振興会 - 植物分子デザイン第178委員会

植物化学シンポジウム(植物化学研究会)、日本植物細胞分子生物学会、日本生薬学会、

(公財)木原記念横浜生命科学振興財団、和漢医薬学会、日本中医食養学会、

日本薬史学会、東京大学乙卯研究所

加盟業界団体

社会貢献の一貫として、下記団体に加盟しています。

日本医薬品原薬工業会、日本漢方生薬製剤協会、(公社)東京医薬品工業協会、(一社)千葉県製薬協会

(公社)東京生薬協会、日本食品添加物協会、(公財)日本健康・栄養食品協会、(一社)日本栄養評議会、

(一社)日本健康食品規格協会、化粧品原料協会、甘草工業懇話会、ステビア工業会

日本ブルーベリー協会、千葉県食品産業協議会、(一社)千葉県経営者協会、日蘭協会、佐倉商工会議所

下記の大学・研究機関等との共同研究を行い、植物化学の発展に寄与しています。

東京大学、慶応大学、千葉大学、北里大学、
横浜市立大学、東京理科大学、星薬科大学、
大阪大学等 産業技術総合研究所、
かずさDNA研究所、理化学研究所、国立医療長寿健康センター、国立健康・栄養研究所
国立医薬品食品衛生研究所、
イノデンタルクリニック 等



学会／論文・寄稿一覧

【学会】

日本ハーブ療法研究会 第1回学術集会（国立がん研究センター 築地キャンパス, 2013）
伝統的東洋ハーブ羅布麻（ラフマ）によるメンタルケア ―その機能性と安全性―
第30回和漢医薬学会学術大会（金沢大学自然科学本館・大講義棟, 2013年）
葛根湯中指標8成分の同時HPLC定量分析方法的開発及び煎じ薬の新規煎法開発におけるその応用
日本生薬学会第60回年会（北海道医療大学 当別キャンパス（2013））
中央アジアカンゾウ属植物の遺伝子及びメタボローム解析
日本薬学会（第133年会，横浜，2013年）
メチルニトロソ尿素に対する大豆イソフラボンの抗変異原性
日本薬学会（第133年会，横浜，2013年）
N-メチルニトロソ尿素に対する甘草中の抗変異原性成分
日本中医食養学会主催 第4回学術発表会「からだを衛る薬膳」～肺は免疫力の元～（2013年）
漢方を応用した未病に対する健康食品の開発

【論文・寄稿】

月桂樹葉抽出物 『オーラルヘルスケア機能性食品の開発と応用』 (株)シーエムシー出版, 203-208. (2013)
月桂樹葉抽出物 『ゲッケイジュ葉の口腔内細菌に対する作用』 臨床環境医学, 第22巻, 第1号, 47-58. (2013)
カシス・ビルベリー 『アントシアニン(カシスとビルベリー)の血管薬理学』 FOOD FUNCTION, 第11巻, 2-8. (2013)
ビルベリー 『Degradation Index for Quality Evaluation of Commercial Dietary Supplements of Bilberry Extract』 Journal of Food Science, 78(3) 477-483. (2013)
安全衛生 『米国「食品安全強化法」への対応』 食品と開発, 5月号, vol. 48, p13 (2013)
黒ウコン抽出物 『～健康寿命を延ばそう～ アンチエイジング素材サートマックス』 FOOD STYLE 21, 食品化学新聞社, 2013年4月号

自然との共生 ゼロエミッション

植物抽出残渣の堆肥化によるゼロエミッション活動

私たちの仕事の源である植物資源を最後まで大切に使用すると同時に、廃棄するものを極力少なくすることにより、環境への負荷を軽減しています。

植物エキスの製造後に排出される抽出残渣（植物の搾りかす）を堆肥化しています。この堆肥は、作物の栽培に利用され、新たな植物資源を生み出しています。



植物資源



残渣堆肥化



文化・社会貢献活動

豊かな文化活動に貢献

21_21 DESIGN SIGHTでは 6月21日より開催された、デザイナーの藤原 大氏の企画展「カラーハンティング展 色からはじめるデザイン」における、100%植物由来の香水と顔料をつくるプロジェクトに参加しました。天然の香りと色、植物のもつ新たな力、可能性を発見しました。



感動を伝えるスポーツ活動

スポーツ振興のための活動にも力を入れています。

スポーツ奨励事業の一環として、千葉県食品製造健康保険組合主催の野球大会へ参加しています。2013年8月25日に千葉県食品製造健康保険組合野球大会の決勝戦が行われました。昨年準優勝という結果に雪辱を果たし、優勝することができました。たくさんのご声援ありがとうございました。



バルドラール浦安F.S(フットサルクラブチーム)を応援しています。

グループ企業の日本サーナ株式会社を通じてオフィシャルサプライヤーとして、『多くの子供たちにスポーツの試合の興奮や感動を体感してもらいたい』との思いに協賛しています。

地域に根ざした貢献活動

本社工場周辺で美化活動を実施

毎月本社工場周辺の清掃を行なってきました。「挨拶 地元を元気に！」の合言葉の下、清掃活動の傍ら住民や道行く方々への挨拶運動も実施しています。私たちの運動が地域社会に元気、活力を与え、大きく広がっていくことを願っています。



ハーブ園見学を通じてお客様と対話

本社工場に隣接したハーブ園では、他の植物園では見る機会が少ない、100種類を超える西洋ハーブや東洋ハーブを無料で見学いただいています。8月のブルーベリーフェアにおいて、ブルーベリー狩りを実施し、熟した新鮮な果実で夏の味覚を楽しんでいただきました。



常磐植物化学研究所は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21認証登録制度」に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。またエコアクション21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

エコアクション21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的、効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、活動し、継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。エコアクション21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を、審査し、認証・登録する制度が、エコアクション21認証・登録制度です。



エコアクション21

認証・登録番号0003872

環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の強化

環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。

2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進

エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。

3. 循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進

廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。又、グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。

4. 環境関連法規の遵守

環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。

5. 環境方針の周知と社内教育の推進

地球環境と共栄していくための教育を行い、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。

6. 地域の人々との共生

地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2014年4月1日

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長

立崎 仁

登録事業所の概要・環境経営組織図

事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地 <http://www.tokiwapl.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

環境保全関係の責任者及び担当者

責任者 技術部長 : 木村 宜仁
担当者 EA21事務局 : 酒井 裕介

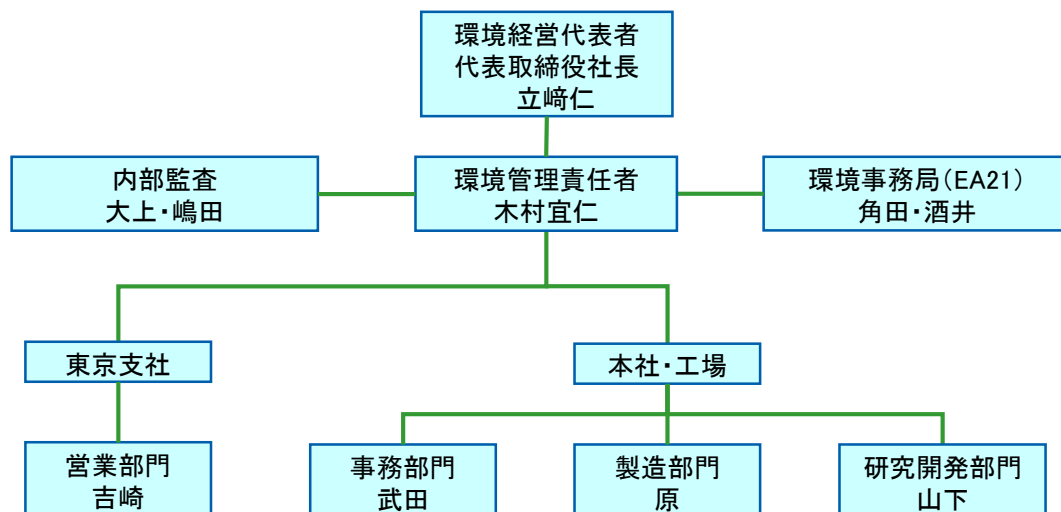
事業内容(認証・登録の範囲)

医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売
認証・登録範囲 全組織(本社・工場及び東京支社)及び全活動

事業規模

資本金	7,000万円	
主要製品生産量	966 t/年	
従業員	本社・工場 100名	東京支社 11名 (2014年4月1日現在)
工場延べ床面積	本社・工場 8,297 m ²	東京支社 138 m ²

環境経営システム組織図



環境活動の取組計画と評価

環境目標及びその実績

項目		年度	全 社			本社・工場			東京支社		
			2011年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度	2013年度
二酸化炭素排出量(電力)の節減	t-CO ₂		1,646	1,630	1,270	1,641	1,625	1,263	4.8	4.5	6.9
二酸化炭素排出量(燃料)の節減	t-CO ₂		3,015	2,685	2,571	3,015	2,685	2,571			
一般廃棄物の削減	総量(t)		35.5	37.3	36.8	35.2	36.9	36.4	0.29	0.36	0.35
産業廃棄物の削減	総量(t)		66.6	61.4	65.0	66.6	61.4	65.0			
総排水の節減	総量(m ³)		114,473	100,849	102,199	114,378	100,743	102,107	95	106	92
化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	変化量 (%)			+76.6			+76.6			
グリーン購入の推進	品目数				3			2			1
製品毎の製造工程改善	課題数				82			82			
食品廃棄物リサイクル率の維持	リサイクル 率(%)		98.3	98.3	98.3	98.3	98.3	98.3			
参考／製品の拡売	生産量 (t)		788	966	966	788	966	966			

環境活動の取組計画と評価

2013年度 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み

本社・工場

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・休憩時間中の照明の消灯・エコプロ導入電気使用量削減	目標:1,349 t-CO ₂ 実績:1,263 t-CO ₂ 93.6 %	計画的な生産の組み立てにより使用量を節減。事務所のLED化を実施し、次年度以降計画的に導入を進める。
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 ・エコドライブ運動の推進・蒸気潜熱低減、ボイラー管理強化	目標:2,671 t-CO ₂ 実績:2,571 t-CO ₂ 96.2 %	稼働時間短縮により大幅に節減。省エネ設備への更新を勧める。
一般廃棄物の削減 ・消耗品の購入管理 ・分別BOXの管理、リサイクル意識向上	目標:36.5 t 実績:36.4 t 99.7 %	目標達成。削減活動を継続する。
産業廃棄物の削減 ・有機溶媒の省力化・産業廃棄物管理	目標:60.8 t 実績:65.0 t 106.9 %	木製パレットの廃棄物量が増加。未達成。
節水 ・各工場への節水教育・退出時の見回り実施、節水意識向上	目標:99,736 m ³ 実績:102,107 m ³ 102.4 %	工場内点検を実施し意識向上に努めたが未達成。生産品目による使用量変動が原因。
化学物質使用量の削減 ・PRTR法対象化学物質使用量の確認 ・分析機器移動層の適正量調整 ・移動層使用量削減に向けたHPLC分析法の確立 ・エタノール回収量の把握と管理 ・残渣乾燥機のランニングコスト管理	PRTR法対象化学物質 目標: 1 %減 実績: 76.6 %増 エタノール 目標: 2 %減 実績: 13.8 %減	PRTR法対象化学物質は、実験用での使用が増加。次年度以降削減を強化。製造用エタノールは使用実績を把握、管理強化により目標を大幅に達成。次年度も継続する。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標:2品目追加 実績:2品目追加 100.0 %	目標達成。積極的にグリーン購入を進める。
製品毎の製造工程改善 ・作業時間の無駄改善	目標:— 実績:82課題	今期は課題を把握。次年度改善目標設定し改善活動を実施。
食品廃棄物のリサイクル率の維持 ・リサイクルの推進・動植物性残渣の低減	目標:80.0 %以上 実績:98.3 %	目標達成。リサイクル率維持。
地域社会との共生 ・周辺地域の毎月1度の定期ゴミ拾い	達成	周辺美化活動を継続。

東京支社

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・エアコン設定温度の管理・未使用機器の電源を切る	目標:6.21 t-CO ₂ 実績:6.86 t-CO ₂ 110.4 %	目標未達成。社員の節減意識を高める。
一般廃棄物の削減 ・裏紙使用によるコピー用紙の削減・書類の紙媒体削減	目標:351 kg 実績:353 kg 100.5 %	目標はほぼ達成。継続して改善活動に努める。
節水 ・節水の周知徹底、節水機器の設置・退出時の見回り実施	目標:106 m ³ 実績: 92 m ³ 86.7 %	目標達成。活動を継続。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標:1品目追加 実績:1品目追加 100.0 %	目標達成。積極的にグリーン購入を進める。

総括(全体評価と見直し内容)
目標はほぼ達成できている。今後は実績を可視化するために、LED導入、省エネ設備への更新等次年度以降積極的に進める。今期より化学物質使用量の削減、グリーン購入の推進を環境方針に追加。特に化学物質量の削減については次年度以降管理を強化する。安全衛生委員会と連携し化学物質のMSDS作成、教育訓練を実施、社員教育は積極的に行っていく。

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2011年の値 = 0.463を使用する。

2014年度 環境活動計画

2014年度 部門毎取り組み予定

部門	項目	取り組み内容
製造部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ 省電力機器の検討・導入による消費電力の削減
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ ボイラーの管理 ■ 減圧弁・安全弁・バルブ類点検と管理
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物分別の管理
	産業廃棄物の削減	■ 産業廃棄物の分別・整理・管理 ■ 食品廃棄物の分別の徹底及び管理
	節水	■ 工場内の水漏れの定期点検 ■ 工場用水の使用量の把握と管理
	化学物質使用量の削減	■ 使用量の把握と管理
	環境配慮製品の開発・販売促進	■ 課題の把握と管理
事務部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ エアコン設定温度管理の徹底
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ 社用車の走行距離・ガソリン購入量の記録化 ■ 走行距離に応じたメンテナンス実施
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 本社事務所の可燃ごみ重量測定
	節水	■ 使用量の徹底管理(ゲーター更新&集計) ■ メンテナンスによる漏水防止
	グリーン購入の推進	■ 購入品の把握と購入推進
研究開発部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し ■ 休憩時、退出時等の消灯実施
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物の重量の把握 ■ ゴミ分別の徹底によるリサイクル率の向上
	産業廃棄物の削減	■ 適正な分別の徹底 ■ 廃液処理手順の見直し
	節水	■ 器具洗浄方法の見直し ■ 退出時に見回り、元栓の閉閉を実施
	化学物質使用量の削減	■ HPLC移動相の適正量調査 ■ 計画的な購入と無駄の排除
営業部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ エアコン設定温度管理、スーパークールビズ対策 ■ 照明及び未使用機器の節電
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 書類の紙媒体削減、可燃ごみの削減
	節水	■ 節水の周知徹底、節水機器の設置

中期目標(2013年~2015年)

	項目	2012年度 (基準年)	2013年度	2014年度	2015年度
本社・工場	二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,356 t-CO ₂	1,349 (0.5%節減)	1,340 (0.7%節減)	1,326 (1%節減)
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,685 t-CO ₂	2,671 (0.5%節減)	2,653 (0.7%節減)	2,626 (1.0%節減)
	一般廃棄物の削減	36.9 t	36.5 (1%削減)	36.3 (1.5%削減)	36.2 (2%削減)
	産業廃棄物の削減	61.4 t	60.8 (1%削減)	60.2 (2%削減)	59.6 (3%削減)
	総排水の節減	100,743 m ³	99,736 (1%節減)	98,728 (2%節減)	97,720 (3%節減)
	化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	1%削減	1.5%削減	2%削減
	グリーン購入の推進	20品目	22品目(10%増加)	24品目(20%増加)	26品目(30%増加)
	製品毎の製造工程改善	活動検討	現状把握	課題改善	課題改善
	食品廃棄物リサイクル率の維持	80 %以上	維持	維持	維持
東京支社	二酸化炭素排出量(電力)の節減	6,212 kg-CO ₂	現状維持	現状維持	現状維持
	一般廃棄物の削減	354 Kg	351 (1.0%削減)	349 (1.5%削減)	347 (2.0%削減)
	総排水の節減	106 m ³	現状維持	現状維持	現状維持
	グリーン購入の推進	8品目	9品目(10%増加)	10品目(20%増加)	11品目(30%増加)

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2011年の値 = 0.463を使用する。

環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
悪臭防止法	スプレー乾燥機、残渣乾燥機	○(届出、測定)
温対法	全事業所	○(定期報告)
下水道法	全事業所	○(定期報告、測定)
工業用水法	工業用井戸	○(許可、定期報告)
工場立地法	本社・工場	○(届出)
省エネ法	全事業所	○(届出、定期報告)
浄化槽法	浄化槽	○(届出、定期点検)
消防法	工場、蒸留塔、地下タンク 貯蔵所など	○(届出、測定)
振動規制法	工場設備	○(届出、測定)
騒音規制法	工場設備	○(届出、測定)
大気汚染防止法	ボイラー等	○(届出、測定)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物	○(定期報告、 マニフェスト管理)

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
フロン回収破壊法	冷蔵、冷凍コンテナ等	○(証明書の管理)
食品リサイクル法	食品廃棄物	○(定期報告、 リサイクル率 98.3%)
家電リサイクル法	対象家電機器	○(廃棄実績の確認)
PRTR法	第一種指定化学物質	○(管理)
労働安全衛生法	本社・工場	○(健康診断、環境測定)
毒劇物取締法	毒物、劇物	○(管理)
公害防止組織法	本社・工場	○(届出)
容器包装リサイクル法	容器包装資材	○(申込み)
高圧ガス保安法	高圧ポンプ等	○(管理)
自動車リサイクル法	自動車	○(確認)
化審法	既存第二種監視化学物質	○(管理)
肥料取締法	堆肥場	○(届出、測定)

違反、訴訟等の有無

上記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は98.3%と維持できています。
なお関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

代表者による評価と見直し

総括

今年度は、環境負荷の主要因となる電力量、燃料消費量においては共に大きく削減できた。廃水、産業廃棄物の未達成項目においては、新年度に向けて改善していく。衛生環境、安全環境においては、内部監査を実施、強化したことで、構内美化の推進と構内の危険箇所の改善を図った。教育面においても、機械の操作方法、フォークリフトの運転方法などを大幅に見直した。新年度は、環境負荷の低減を継続し、化学物質の削減にも努めていく。また、社内のみならず、社外・近隣に対しても、これまで以上に衛生面、環境面、安全面に配慮し、可能な限りの改善を行い、地域社会の一員として、更なる意識向上に努めていく。